

第1学年1組 生活科学学習指導案

1 単元名 「いきものと なかよし」

2 指導観

- 本学級の子どもは、単元「きれいにさいてね」の学習において、自分が育てる花に名前を付けたり、毎朝水やりをしながら話しかけたりして、大切に育てることができていた。

生き物については、休み時間に校庭で見付ける子どもの姿が多く見られた。しかし、見付けることに一生懸命になってしまい、たくさんの生き物を一つの生き物かごに入れたり上手に世話ができなかったりした子どもも多くいた。また、生き物が苦手だという子どもも見受けられた。

活動においては、ほとんどの子どもが出会った対象に興味をもち、積極的に関わることができているが、疑問に思ったことや気付いたことを友達同士で進んで伝え合うまでには十分に至っていない。

- 本単元は、学習指導要領の内容（7）「動植物の飼育・栽培」（8）「生活や出来事の交流」を受けて設定したものである。本単元のねらいは、校庭などの草むらで生き物を探し、捕まえた生き物を観察したり、すみかやえさを用意して飼ったりする活動を通して、それらの生息している場所の特徴や、変化や成長、生き物は生命をもっていることなどに気付き、生き物の立場に立ってすみかや世話の仕方などを考え、生き物に親しみをもつことができるようにすることである。ここでは教材として、校庭にいる生き物（バッタ、カマキリ、コオロギ、ダンゴムシ等）を中心に、身近な場所に生息する生き物を取り上げるようにする。子どもが生き物を育てたいという気持ちを抱き、自らの手で継続的に生き物の世話をして関わることができるような学習展開にする。このことを通して、生き物も自分たちと同じように生命があること、成長していることに気付くとともに、生き物を大切にすることができるようにすること、また、飼育活動の中で生き物のことを考えた世話ができるようになった自分の成長や頑張りに気付くようにしたい。

- 指導に当たっては、以下の手立てを講じる。

① 子どもが思いや願いをもって活動し続ける工夫

「むしさんのお世話をしたい」という子どもの思いを引き出すことができるように、一人一人のむしかご等を用意するとともに、「お世話コーナー」などのえさやりやすみかを整えるための場づくりをする。また、「どうしたらむしさんが喜ぶかな」「むしさんと仲良くなりたいな」という思いや願いを継続してもち、お世話ができるようにするために、「毎日の自分の生き物の健康観察」をしながら生き物と関わる活動を常時活動として設定する。

② 伝え合い交流する活動の工夫

常時活動の際には、「毎日の自分の生き物の健康観察」をグループ（生活班）で行う。自分のむしとともに友達のむしの健康観察を行い、気付いたことや思ったことを伝え合うようにする。このことで、自分や友達のむしに対する気付きを日常的に表出し、交流することができるようにする。その際、自分と自分のむしとの双方向の関わりが生まれるようにし、言葉、絵、動作などの多様な表現方法で伝え合うようにする。また、むしの世話をしたり、むしに話しかけたり話しかけられたりしたと思った内容から生まれた疑問や気付きなどをカードに書くようにする。カードは教室に掲示し、気付きを共有できるようにする。互いのカードを読んだり、友達に返事を書いたりする活動を通して、相互の交流が生まれるようにする。

生き物と仲良くなる場面では、「おはなしタイム」を設け、同じ生き物を飼っているグループで、自分の生き物の特徴、世話の工夫、触れ合い方などを伝え合い、よいところや真似したいところを見付けるようにする。このことで、世話や関わり方などについての自分や友達のよさや頑張りに気付くことができるようにする。

③ 気付きの質の高まりを実感できる活動の充実

単元の導入時より、世話をするむしに心を寄せ、自分のむしからの声が聞きたくなるようなアイテム（「むしさん なかよしけいたい」など）を用意する。そのアイテムを活用して、むしと出会ったとき、世話を始めた頃、友達と交流した後など、継続して生き物と関わる中で、その都度、自分と自分のむしとの双方向の関わりから生まれた気付きなどを「生き物の声カード」

を書くようにする。単元の終末には、自分とむしとの関わりを振り返り、自分のむしからの「〇〇さん、いつもありがとう」の手紙を書くことで、自分の世話の仕方のよさや自分の頑張りと成長などに気付くことができるようにする。

教師は、子どもとむしとの双方向の関わりを児童の発言などから具体的にとらえ、一人一人の思いや願いを実現していく過程を丁寧に見取り、評価規準に照らして評価をし、個別支援表に記入していく。それを基に、個に応じた適切な言葉かけや働きかけを行うようにする。

3 単元目標

生活への 関心・意欲・態度	○ 生き物やそれらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、親しんだり、大切にしたりしようとする。
活動や体験について の思考・表現	○ 生き物などの生き物の育つ場所について考えながら探したり、接し方を工夫して世話したりすることができる。 ○ 思いや願いをもって生き物を飼ったり、世話したりしたことを絵や文等で素直に表現したり、伝え合ったりすることができる。
身近な環境や自分について の気付き	○ 動きやえさなど生き物の特徴、すんでいた場所、生き物は生命をもっていること、成長や変化していることに気付く。 ○ 飼育や友達との交流を通して、自分自身の生き物への親しみが aumentando していることに気付く。 ○ 世話や関わり方についての自分や友達のよさや頑張りに気付く。

4 指導計画（総時数8時間）

主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点	評価規準及び評価方法
1 むしをさがそう。〔3〕 （1）校庭にいる生き物を探す。②	○ 生き物の生息場所の違いに気付かせるために、校内の様々な場所で生き物探しを行うようにする。 ○ 見付けた生き物がどこにいたかを出し合い、生き物の育つ場所に目を向けることができるようにする。 ○ 自分のむしかご等を用意するとともに、みんなで世話をするための「お世話コーナー」をつくる等、むしの世話をするための場づくりを行う。 【安全への配慮】 ○ 生き物を触った後は、手洗い、うがいをするを促す。	【関】校庭などのむしなどの生き物に関心をもち、生き物を意欲的に見付けようとしている。 (行動観察, 発言分析, カード分析) 【思】生き物のいる場所を考えながら、探そうとしている。 (発言分析, 行動分析)
（2）見付けた生き物を「見つけたよカード」にかいて紹介する。①	○ 前時を振り返りながら生き物を見付けた場所をマップにまとめ、どこにどんな生き物がいるかを整理できるようにする。 ○ 自分の見付けた生き物（バッタ、カマキリ、コオロギ、ダンゴムシ等）の様子や見付けた場所、自分とむしとのやりとり等について「見つけたよカード」にまとめるようにする。	【気】生き物を見付けた場所の特徴に気付いている。 (カード分析)
	○ 国語科「しらせたいな 見せたいな」の学習と関連させ、自分のむしとの関わりを友達への紹介ができるようにする。	

2 むしとなかよくなる う。 [3] (1) 自分の生き物の世話を する。 ① [常時活動] ・ むしとお話をする。 ・ 健康観察をする。 ・ えさをあげる。 ・ すみかをつくる。 ・ そうじをする。 ・ 触れ合う。 (2) 友達と自分の生き物 のことについて伝え合 う。 <本時>① (3) 生き物が喜ぶような 世話や触れ合いをす る。 ①	○ 自分の生き物のことを考えて、世話をするようにする。 ○ 毎朝、グループ（生活班）で自分のむしとともに友達のもし健康観察を行い、気付いたことや思ったことを伝え合うようにする。 ○ 常時活動で、気付いたことや疑問に思ったことなどを書いたカードを読み合ったり、友達に返事を書いたりすることで、相互の交流が生まれるようにする。 ○ 「むしさん なかよしけいたい」などを使ってむしとお話をし、自分とむしとの双方向の関わりから生まれた気付きなどを「生き物の声カード」に書くようにする。 ○ 生き物が死んだ場合は、教師とともに死んだ理由を考え、気持ちに寄り添い、次の飼育に向けて励ます。 ○ 「おはなしタイム」で、自分の生き物の特徴、世話の工夫、触れ合い方などを伝え合い、友達のよいところや真似したいところを見付ける活動をすることで、世話や関わり方についての自分や友達のよさや頑張りに気付き、これからの関わりに生かすことができるようにする。 ○ 前時の気付きを基に、「もっと仲良くなりたい」「お世話を頑張りたい」という子どもの思いを大切にしながら、生き物のことを考えた世話や関わりができるようにする。 ○ 道徳「どうぶつにも ころがある」と関連付ける。	【関】生き物のことを考え、毎日の世話を欠かさずに進んで生き物と関わっている。 (行動分析、カード分析) 【思】思いや願いをもって生き物の世話をしようとしている。 (行動観察、カード分析) 【気】世話や関わり方についての自分や友達のよさや頑張りに気付き、生かそうとしている。 (発言・行動分析、カード分析) 【思】前時の気付きを基に、自分の生き物に合った関わり方を考え、世話をしている。 (行動分析、カード分析)
3 むしのおもいでをふりかえろう。 [2] (1) 自分あてに、自分のむしからの「〇〇さん、いつもありがとう」の手紙を書く。 ①	○ 自分の生き物から自分にあてた手紙に書くことで、これまでの自分の生き物との関わりを振り返り、自分の頑張りが成長に気付くことができるようにする。	【思】生き物の世話をしたり関わったりしたことを表現することができる。 (発言分析)

(2) 自分の育てている生き物について紹介し、これからの生き物の世話について考える。①	○ これまで書いたカードなどを手がかりに、自分の生き物の関わりから生まれた思いや願い、気づきなどを表現できるようにする。 ○ 生き物がいた場所に返すことや継続的に育てることなどを話し合う中で、一人一人の思いを大切にしながら取り組みたい活動を考える。	【関】自分たちの成長を実感したり、むしとの関わりを通して学んだりしたことを、これからの生活に生かそうとしている。 (発言分析、カード分析、行動分析) 【気】生き物と関わって生活する楽しさや、自分の頑張りに気付いている。 (発言、カード、手紙分析)
--	--	---

5 本時の学習 <第二次2時>

於 ランチルーム

(1) 主眼

自分のお世話しているむしさんの喜んでいることを友達と伝え合う活動を通して、自分の育てている生き物に合った世話や触れ合い方があることに気付くことができるようにする。

(2) 準備 子ども…自分の生き物 生き物かご えさなど

教師…振り返りカード

(3) 展開

主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点 【観点】評価規準（評価方法）
1 本時のめあてを確認する。  ぼくの〇〇くんの好きな食べ物のお話を話したいな。 めあて 〇〇ちゃんのよろこんでいることを おはなししよう。	○ 同じ生き物を飼っているグループで、自分の生き物を手元に置いて、伝え合うことを確認する。 ○ これまでの生き物との関わりを通して、気付いたこと、感じたことを伝え合うことを確かめ、意欲を高めてめあてにつなぐ。
2 「おはなしタイム」を取り、生き物の様子について交流する。  ぼくの〇〇くんは、キャベツを食べるよ。たくさん食べているから、喜んでいておもうな。 わたしの〇〇ちゃんは、葉っぱをよく食べるよ。おいしいって言って、食べているよ。  ぼくの〇〇くんは、手に乗せると喜ぶよ。逃げずにじっとしているよ。 どうして逃げないのかな？わたしの〇〇ちゃんも、乗せてみようかな。 	○ 友達の話聞いて、試したいことは試すように促す。 ○ 子どもが相互に関わりながら、自由に活動することができるようにする。 ◎ 友達の話聞いたり、友達の生き物かごを見たりして、自分の世話の仕方や触れ合い方で、似ているところや真似したいところを見付けるようにする。 ○ 交流の際、自分の伝えたいことが上手く伝えられない場合には、今まで書いたカードの中から、♡カードを示し、その中から友達に伝えたいことを選ぶとともに、「ここに書いていることを、みんなに見せて」等と助言をし、実際に自分の虫を見せながら、伝えることができるようにする。 ○ ?カード（知りたいこと、教えてほしいこと）！カード（驚いたこと、すごいと思ったこと）♡カード（うれしいこと、よかったこと）、生き物の声カードの4種類のカードを用意して、選んで書くことができるようにする。 ○ 交流を通して、気付いたことや感じたこと、してみたいことなどを書くようにする。 【気】自分の育てている生き物に合った世話や触れ合い方があることに気付いている。（行動分析、カード分析） ○ 振り返りを全体で交流し、次時の学習について見通しをもつことができるようにする。 【安全への配慮】 生き物を触った後は、手洗い、うがいをするを促す。
3 本時の学習を振り返り、次時の学習について話し合う。  〇〇ちゃんの真似をして、葉っぱをあげたら、おいしそうに食べていたよ。今度から葉っぱをあげたいな。  ぼくは、〇〇くんを手に乗せるところをみんなに見せられて嬉しかったよ。	